

1. 基本情報

評価対象年度 (30 年度)

施策コード	414		施策名	公園の整備			
将来像	4	豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち(「基盤づくり」の分野)					
まちづくりの基本目標	41	快適で住みやすいまち					
主担当部	都市整備部		主担当課	水と緑の環境課		主担当係	緑と公園係
担当者	佐々木 秀貴		役職	都市整備部長		内線	360
関係課	総務課						

2. 施策の方向

10年後の姿	市民のニーズに対応した特色ある公園が整備され、多くの市民が快適に利用しています。また、地域の公園の維持管理に市民が主体的に関わっています。	
施策の方向性	1	多様化する市民ニーズに対応する公園の整備を進めていきます
	2	地域から親しまれる市民の手による公園づくりを推進します

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

No.	事務事業名	実行計画	施策の方向性	担当課	平成29年度決算	平成30年度決算	平成31年度予算
0102010707	施設等営繕事業	対象	1	総務課	14,029	14,220	14,766
0108030502	公園管理事業	対象	すべて	水と緑の環境課	77,067	83,012	76,627
0108030503	公園整備事業	対象	すべて	水と緑の環境課	242,221	34,308	15,500
0108030510	柳瀬川回廊事業	対象	1	水と緑の環境課	6,000	7,619	7,775
総事業費(施策の合計)					339,317	139,159	114,668

4. まちづくり指標

指標情報				平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和3年度	令和7年度	
①	名称	市民1人当たりの公園面積		目標値	3.13	3.36	3.40	3.40㎡以上	5.00㎡以上
	説明	単位	㎡	実績値	3.12	3.36			
	抽出方法	公園等の面積の人口割り		達成率	99.7%	100.0%			
②	名称	市民による公園の自主管理の取り組み数		目標値	0	1	2	5	10
	説明	単位	数	実績値	0	0			
	抽出方法	地域住民による清掃活動など		達成率	—	0.0%			
③	名称	身近にある公園は憩いの空間になっていると思う人の割合		目標値	—	—	—	40.0	45.0
	説明	単位	%	実績値	38.8	—			
	抽出方法	市政世論調査(平成29、令和2、5、8年度実施)		達成率	—	—			

5. 評価(平成30年度実績に対する)

評価基準	評価※	評価理由
投入財源・成果 (「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」)に対する評価	総合評価 (成果、投入財源等を総合的に評価)	維持
<p>平成30年度、野塩四丁目地域に公園用地として寄付された土地と宅地開発により帰属を受けた土地を一体的に公園として整備を行い、面積595.47㎡と比較的規模の大きな「野塩さくら児童遊園」を開園した。野塩地域には大きな公園が少ないことから、当該公園は開園以来、多くの子供たちをはじめ地域の憩いの場として利用されている。</p> <p>開発指導において宅地開発地の周辺に既存の公園がある場合、大きな公園整備や雑木林の購入資金とするため、金銭納付を誘導しているが、現状においてはすべてが金銭納付とはなっていない。小規模公園が増えることは、維持管理費や管理作業の負担増加を招くこととなるため、周辺の距離基準を明確にする必要がある。</p>		

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している
維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある
停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

外部要因	状況	外部要因に対する評価	評価理由
市民ニーズの状況	大きな公園のニーズがあり、多くの市民が利用できる新たな整備が必要となっている。遊具の充実や健康増進器具、カフェレストランの設置要望がある。	3. 施策の必要性を高める	市が管理する公園のほとんどが宅地開発時に整備された小さな公園が多く、一定年数を経過すると利用されない公園と なってしまっている。大きな公園の整備を後押しするものとなっている。
将来人口の推移	合計特殊出生率が低い。	3. 施策の必要性を高める	人口ビジョンで掲げる「20～30代の結婚・出産・子育ての希望を叶えるまちづくり」を進めるため、魅力ある公園整備は必要不可欠なものとなる。
他自治体との比較	近隣市には、比較的規模の大きな都立公園などが整備されている。さらに、近年は防災機能をもたせた公園が多く整備されている。	3. 施策の必要性を高める	当市においても、規模の大きな公園整備の声が多く、公園整備を検討していく必要がある。また、災害時の避難場所にもなるなど、オープンスペースの活用についても検討する必要がある。
民間企業・NPO・市民の動向	コミュニティはぐみ円卓会議や自主防災組織、地域包括ケアシステムなど、自治会以外で市民同士のコミュニティ形成を促進する動きが活発になっている。	1. 施策遂行に役立つ・有利	現在のコミュニティ形成の動きは、今後の公園の自主管理に繋がっていくものであると考ええる。

7. 施策を進める上での課題

①	施策を進める上での課題	子育てしやすいまちづくり、高齢者にやさしいまちづくりを目指すためにも、規模の大きな公園を整備することが必要である。		
	関連する事務事業名	公園管理事業	公園整備事業	柳瀬川回廊事業
	現在の取組状況	現在、大規模な公園については、台田の杜遺贈地を活用した(仮称)花のある公園整備を検討している。また、清瀬橋付近に仮称「親水公園」の整備を東京都と連携して整備するための調整をしている。		
令和2年度以降の取組	柳瀬川回廊事業推進検討委員会の答申に基づき、将来の台田の杜全体を考えた遺贈地の具体的な整備方針や年次計画を策定するため、平成31年度は測量(境界確定)し、ワークショップを行うなかで基本方針を策定し、令和2年に実施設計を行う。清瀬橋付近の仮称「親水公園」の整備については東京都基盤整備後となるため、令和3年度以降実施設計となる。			
②	施策を進める上での課題	現在、約134箇所の公園等を維持管理しているが、規模の小さなものは利用されていないものも多い。今後、売却も含め付近の住民の意見を聞いた中で合意形成を行い、活用方法を検討する。		
	関連する事務事業名	公園管理事業	公園整備事業	
	現在の取組状況	利用頻度が極めて低い公園については、近隣住民や自治会等の同意を求め、売却する方向で検討を進めている。		
令和2年度以降の取組	小規模公園の在り方の検討を継続するとともに、公園の維持管理については、地域住民が活用し維持管理していただけるような公園に変更する。樹木は剪定しやすい低木へ移行することで、公園を明るくし、地域の憩いの場所にする。			
③	施策を進める上での課題	今後、宅地開発に伴い小さな公園が増えていくと管理が難しくなる。金銭納付を増やすことにより、緑地保全基金に積み立て、維持管理や規模の大きな公園の整備に活用する必要がある。		
	関連する事務事業名	公園管理事業	公園整備事業	
	現在の取組状況	平成18年に住環境の整備に関する条例が施行され、13年が経過した。金銭納付の取り扱いについて条例の見直しに向けて準備を進める。		
令和2年度以降の取組	宅地開発に伴いむやみに小さな公園を増やすのではなく、地域の公園設置状況を考えた上で金銭納付をしてもらうよう指導していく。			